

科目名	キャリア開発入門	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 1年次	
科目概要	授業内容	本科目は、【志學館大学におけるキャリア教育の入門・基礎編】である。キャリア開発とは何か、キャリアデザインとは何かを理解しながら、自立・自律に向けて自己と社会とのバランス感覚を磨く。そのために、ワークブックを用いて、講義と実践的な作業を取り混ぜて進めていく。
	到達目標	①キャリア開発の基礎知識を身に付け、理論や情報を正確に理解する。 ②自己についての理解を深める。 ③行動力を発揮し、学んだことを大学生生活・社会生活において活用する。
授業計画	(1) キャリア開発のコツ – オリエンテーション (2) 「就職」とは何か – 学生から職業人へ (3) 私たちを取り巻く雇用・労働環境と社会が求める人材像 (4) 教養と一般常識 (5) 業界・職種・企業研究入門 (6) 自分を表現して分析する① (7) キャリアマップとポートフォリオの活用 (8) 自分を表現して分析する③ (9) キャリア発達・開発の諸理論 (10) 自分を表現して分析する③ (11) 職場におけるキャリア開発 (12) コミュニケーションの技法 (13) 面接の種類と参加型学習の効果 (14) 志學館大学におけるアイデンティティ形成 – 創設者満田ユイ先生にみるキャリア開発術 (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	進んだ部分のワークブックを読み返して考察し、必要に応じて調べ、書き足していくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。プリントとワークブックを配布する。
	参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	積極的に授業に参加し、ワークブックとレポートに適切に表現できたときに合格とする。
	方法	参加態度 30%、ワークブック 50%、レポート 20%。
備考	レポート課題の一部に読書課題を含む。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	キャリア概論	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	今後の進路を探索・選択し、生涯を通じた就業力を身に付けるために、講義や外部講師による進路講演会等によって勤労観・人生観を明確化する。また、様々な学習形式を取り入れ、自己に対して多角的にアプローチしていく。
	到達目標	①進路探索・キャリアデザインに関する知識・技能を習得する。 ②自分の将来について考え、勤労観・人生観を高め、感想文として表現する。 ③一般常識の有無を自覚して自学自習し、テストで8割以上の点数を取る。
授業計画	(1) オリエンテーション／「今」からやるべきこと (2) 進路選択のための基礎知識 (3) 自分史とこれからの大学生活 (4) アクティブラーニングと職業統合的学習のススメ (5) キャリアデザイン講演会（NHK エデュケーショナルプロデューサー） (6) 社会分析 (7) キャリア開発の理論と実践 (8) キャリアデザイン講演会（企業関係者） (9) 地域分析 (10) 自己分析 (11) キャリアデザイン講演会（医療／福祉関係者） (12) 卒業生のキャリア開発 (13) キャリアデザイン講演会（士業／自営関係者） (14) 総まとめ (15) 一般常識テスト	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	授業の内容をふまえて自己の大学生活プランを見直し、実行に移すこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	毎回積極的に授業に参加し、講演等や読書課題について考察し的確にコメントに表現し、それらによって自学自習のモチベーションを保つことで一般常識テストの高得点をめざし努力した場合に合格とする。
	方法	出席態度・コメントシート（70%）、新聞記事課題（20%）、一般常識テスト（10%）。
備考	・外部講師の関係で、授業の内容や順番が変わることがある。 ・『読書』課題は新聞記事課題とする。詳細は初回で説明する。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	キャリアデザイン	
担当者	志賀 玲子 / SHIGA, Reiko	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 後期 / 講義 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	「キャリア概論」を実践面で発展させた内容である。今年度より、株式会社ポケモンプロとの連携により「薩摩剣士隼人プロジェクト」に接することで、地域活性化と自己のキャリアデザインについて考える。そのために、グループワークに慣れ、人生・社会・仕事について、外部講師・内定者の話や他者との対話を通して自分の考えを明確にしておく。
	到達目標	①自己分析を進めて言語化することで、自己形成にとって経験がいかに重要であるかを知る。 ②授業内容をきっかけとし、希望する職業や職場の研究を積極的に進め、各自必要な対策を練り、キャリアデザインに取り組む。 ③グループワーク等のアクティブラーニングに慣れ、積極的に発言や提案ができるようになる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) グループワークの種類と進め方 (3) キャリア開発の理論と技法 (4) 地域・社会分析 (5) 業界研究 (6) 業界研究 (7) 自己分析とキャリアデザイン (8) 企画力と広報力 (9) 内定者パネルディスカッション (10) 「薩摩剣士隼人」とは（薩摩剣士隼人プロジェクト制作総監督） (11) ヒーロー・アイドル・ゆるきゃらの設定にみる鹿児島の特徴 (12) コンテンツづくりの現場を知る (13) コンテンツづくりに参加する (14) グループ・ディスカッション：地域活性化とは (15) 総まとめ	
自学自習	事前学習	・新聞等で時事や地域情報に常に接しておくこと。 ・連携する「薩摩剣士隼人プロジェクト」について調べておくこと。
	事後学習	授業内容を踏まえて、自己のキャリアデザインをもとに具体的にアクションを起こし、その経過について次の授業のコメントシート等で深めていくこと。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	適宜、紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	授業に積極的に参加し、特にワークやディスカッションを楽しむ姿勢を見せた時に高く評価する。そして、各自の学びがレポートに反映されていれば合格とする。
	方法	出席態度・コメント（70%）、レポート（30%）。
備考	外部講師の関係で、授業の順番や内容は変わることがある。『読書』課題については、レポートのテーマの一部に取り入れる。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	キャリア開発演習 I	
担当者	◎志賀 玲子 / 末吉 剛士	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 講義・演習 / 2単位 / 2年次	
	株式会社マチトビラとの連携事業	
科目概要	授業内容	企業との連携により、キャリア開発のための技能やツールに焦点を当てて実践し、地域社会において有為な人材として活躍するための知識・感覚を磨く演習を行う。そして、明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組む姿勢や、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力、勤労観・職業観を身に付け、社会人・職業人として自立するための素地を作る。
	到達目標	①視点を増やす（長期的視点、社会的視点、公益の視点など）。 ②論理的に考えることができる。 ③自分の考えをわかりやすく伝える。 ④高い意欲で自ら「気づき」を生み出せる。
授業計画	(1) オリエンテーション ガイダンスとワークショップ体験 (2) 社会人基礎力① 活躍するために必要なツール (3) 社会人基礎力② チームビルディング (4) 社会人基礎力③ コミュニケーション (5) キャリアデザイン①（導入・自己分析） マッピングメモ (6) キャリア事例 先輩の話を知ろう (7) キャリアデザイン②（自己分析） 図書館めぐりから考える自己分析 (8) キャリアデザイン③（自己分析） 自分エンジンを探そう (9) キャリアデザイン④（自己分析） 社会人へのインタビューワーク (10) プロジェクト① 課題の解決に向かって全5回を使いアイデアを考え実施する (11) プロジェクト② 同 (12) プロジェクト③ 同 (13) プロジェクト④ 同 (14) プロジェクト⑤ 同 (15) キャリアデザイン（まとめ） ワールドカフェと大質問大会	
自学自習	事前学習	新聞等によって社会情報を収集しておくこと。
	事後学習	・配布された資料や紹介された情報を確認して考察すること ・授業で学んだことを大学生活において積極的に実践し、また次の授業で周囲にフィードバックすること。
使用教材・参考文献	使用教材	教科書は特に指定しない。講義中に配布するプリント（ハンドアウト）を用いる。
	参考文献	必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	個人や集団の様々なワークに積極的に参加し、レポート課題で自己の生き方について考察し的確に表現できた場合に合格とする。
	方法	授業参加態度（80%）、読書レポート（20%）。
備考	「キャリア開発演習Ⅱ」と連動する内容や提携企業であり、併せて履修すると学習効果が一段と高まるため、両方の履修をおすすめする。（義務ではない。）	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	キャリア開発演習Ⅱ	
担当者	◎志賀 玲子 / 末吉 剛士	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 実習・演習 / 2単位 / 2年次	
	株式会社マチトビラとの連携事業	
科目概要	授業内容	次のうちどちらかを選ぶ。 ①国土交通省・鹿児島県交通政策の担当者により鹿児島の陸・海・空の特徴や政策等について議論をしながら学び、実際に「フィールドワーク」（実地調査実習）に参加する。県庁や施設等も見学を予定している。 ②株式会社マチトビラとの連携により、「地域協働型インターンシップ」（徹底した研修でキャリア開発の技法を習得し、他大学学生とも仲間づくりをしながら、地域課題を扱う企業・NPO・団体等において実践的な就業体験を行うこと）に参加する。
	到達目標	①リスクマネジメントをしたうえで就業体験もしくは実地調査をする。 ②地域での実習を通して実社会に触れる。 ③勤労観・職業観を明確にする。 ④主体性・実行力を養う。 ⑤柔軟性・規律性を学ぶ。 ⑥実習後の振り返りにより、今後の行動を再計画する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) ①鹿児島の陸地 ②事前研修（コンプライアンス、情報リテラシー、目標設定） (3) ①鹿児島の海 ②就業体験実習 (4) ①鹿児島の空1 ②就業体験実習 (5) ①鹿児島の空2 ②就業体験実習 (6) ①世界と日本の交通政策 ②就業体験実習 (7) ①行政の役割と担当者のキャリアパス ②就業体験実習 (8) ①グループ分けと目標設定 ②就業体験実習 (9) ①事前調査 ②中間研修（状況確認、課題把握、改善策のアクションプラン策定、フォローアップ） (10)①フィールドワーク1 ②就業体験実習 (11)①フィールドワーク2 ②就業体験実習 (12)①フィールドワーク3 ②就業体験実習 (13)①フィードバックとリフレクション ②就業体験実習 (14)①プレゼンテーション ②事後研修（目標に対する振り返り、大学生活への活かし方） (15)総まとめ	
自学自習	事前学習	・新聞等によって社会情報を収集しておくこと。 ・実習や研修で学んだことを次の日程までに再確認しておくこと。
	事後学習	実習や研修で学んだことや気づきを言語化し、日報を作成すること。
使用教材・参考文献	使用教材	最初の授業で紹介する。
	参考文献	必要に応じて紹介する。
成績評価の基準と方法	基準	実習・研修に積極的に参加し、プレゼンテーションで的確に自分の学びや気づきを伝えられた場合に合格とする。
	方法	実習・研修中の参加態度（80%）、プレゼンテーション（20%）。
備考	できるだけ「キャリア開発演習Ⅰ」と併せて履修することを期待する。読書課題については、詳細を初回に説明する。 ★7月に事前の打ち合わせを予定している。したがって、日程の掲示を確実にみておくこと。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	インターンシップ	
担当者	◎野上 真 三宅 裕介	
科目情報	キャリア形成科目 / 選択 / 前期 / 実習・演習 / 2単位 / 2年次	
	—	
科目概要	授業内容	企業や官公庁で一週間程度の職場体験実習をする。これに先立ち、企画力やプレゼンスキル、ビジネスマナーを向上させるための演習にも取り組む。
	到達目標	演習や実習を通し、基本的なビジネスマナーやプレゼンスキル、企画力を身につけるとともに、将来の進路について明確な目標意識を持つ。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 受け入れ志望先へのエントリーシート作成 (1) (3) 受け入れ志望先へのエントリーシート作成 (2) (4) 受け入れ志望先へのエントリーシート作成 (3) (5) プロジェクト講習 (6) プロジェクト実習 (1) (7) プロジェクト実習 (2) (8) プロジェクト実習 (3) (9) プロジェクト実習 (4) (10) プロジェクト実習 (5) (11) プロジェクト実習 (6) (12) プロジェクト実習 (7) (13) 受け入れ先企業研究 (14) ビジネスマナー講習 (15) 社会人講話	
自学自習	事前学習	エントリーシート等提出物の作成については、授業時間内だけの作業では終わりません。事前に具体的な指示はしますので、自主的に進めること。
	事後学習	後期に職場実習レポートの提出があります。
使用教材・参考文献	使用教材	演習中に配布するプリントを用いる。
	参考文献	特になし
成績評価の基準と方法	基準	提出物（エントリーシート等）の作成および、実習への誠実な取り組みが認められたものを合格とする。
	方法	読書課題 10%、受け入れ先研究レポート 10%、プロジェクト実習 30%、職場実習 50%
備考	成績評価は職場実習レポート提出後（翌2月）に出ます。プロジェクト実習では、①鹿児島県の食文化と観光の振興に関わるイベント、②鹿児島県の国際交流に関わるイベント、③就職活動に役立つ本の紹介イベント、のいずれかを企画実施してもらいます。	

授業マトリクス上の位置づけ（科目が設置された学科、コースでの位置づけ）		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	かごしま教養プログラム	
担当者	本学教員の他、県内 11 の大学・短大等教員	
科目情報	かごしま教養科目 / 選択 / 前期 / 演習 / 2 単位 / 1 年次	
	「かごしまフィールドスクール」とセットで受講すること。	
科目概要	授業内容	グローバルな視点から地域の個性化・活性化を考える 3 日間の集中授業。鹿児島を素材にして、講義、グループ学習、討論、発表を行い、切磋琢磨しながら学ぶ。8 月下旬に 3 日間の集中学習を行う予定。日程・内容等が決まり次第、別紙を配布する。
	到達目標	1) 講義で提示される鹿児島独自の文化・自然・社会・産業などの統一テーマを理解し、問題点を整理できる。 2) 統一テーマに関連する問題点をグループで討論し、まとめて発表できる。 3) 統一テーマに関するグループの結論をレポートにまとめることができる。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) クラス別・グループ別打ち合わせ (3) 講義 1 (4) 図書館利用による調査 (5) 学術情報センター利用による調査 (6) 講義 2 (7) 講義 3 (8) グループ学習 (9) グループ学習 (10) 中間発表 (11) グループ学習 (12) グループ学習・発表準備 (13) グループ学習・発表準備 (14) グループ学習・発表準備 (15) グループ別発表・総評(授業計画は昨年度のもので、変更の可能性があります)	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・内容等に関連する文献等を読み、紹介した場所等の検分を安全に配慮した上で行うこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	資料を配布する
成績評価の基準と方法	基準	グループで協力して問題点を整理し、積極的に調査を行い、結果をまとめて発表およびレポートの作成ができることを基準とする。
	方法	① 討論・発表 60%、② レポート 40%で評価する。上記の評価方法により、60 点以上に達したものを合格とする。
備考	受講条件 1. 「学問へのステップⅠ」「学問へのステップⅡ」のいずれかを履修中または履修済みであること。2. 「かごしまフィールドスクール」とセットで受講すること	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル

科目名	かごしまフィールドスクール	
担当者	本学教員の他、県内 11 の大学・短大等教員	
科目情報	かごしま教養科目 / 選択 / 前期 / 実習 / 2 単位 / 1 年次	
	「かごしま教養プログラム」とセットで受講すること。	
科目概要	授業内容	鹿児島を舞台とした自主的な体験学習。対象地域の特徴、暮らし、住民意識などを実践的に学習し、地域を活性化していくための方策をグローバルな視点で考察する。8 月下旬に「かごしま教養プログラム」に続いて、2 泊 3 日程度のフィールドワークを行う予定。日程・内容等が決まり次第、別紙を配布する。
	到達目標	1) 調査地区の実地視察や関係者との交流を通して地区の特徴を把握し、テーマに関する調査をする。 2) 地区の活性化の可能性・展望を探り、グループで改善策を討論する。その結果を地元の人達に発表する。 3) 実地調査、討論、発表で得られた成果をまとめたレポートを作成する。
授業計画	(1) オリエンテーション (2) 講義 1 (3) 地域の方の講話 1 (4) 地域の方の講話 2 (5) グループ学習 (6) 現地調査 (7) 現地調査 (8) 現地調査 (9) 現地調査 (10) グループ学習 (11) 発表準備 (12) 発表準備 (13) 発表準備 (14) グループ別発表 (15) 意見交換会・反省会(授業内容は昨年度のもので、変更の可能性があります)	
自学自習	事前学習	・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	・内容等に関連する文献等を読み、紹介した場所等の検分を安全に配慮した上で行うこと。
使用教材・参考文献	使用教材	なし
	参考文献	資料を配付する
成績評価の基準と方法	基準	グループで協力して問題点を整理し、積極的に調査を行い、結果をまとめて発表およびレポートの作成ができることを基準とする。
	方法	①討論・発表 60%、②レポート 40%で評価する。上記の評価方法により、60 点以上に達したものを合格とする。
備考	受講条件 1. 「学問へのステップⅠ」「学問へのステップⅡ」のいずれかを履修中または履修済みであること。2. 「かごしま教養プログラム」とセットで受講すること。	

授業マトリクス上の位置づけ (科目が設置された学科、コースでの位置づけ)		
教育課程の獲得目標	レベルに応じた到達目標	レベル